1月えんだより

2023年度
神戸女子大学附属高倉台幼稚園
園長　木村　奈帆子

明けましておめでとうございます

新しい年「辰年」が始まりました。元旦に起きた能登半島地震では建物の倒壊などがあり、兵庫でも揺れに驚かされました。被災された方々が今、肩を寄せ合い、懸命に耐え忍んでおられる様子から目を離さず、離れた場所からではありますが、心より励ましの言葉を送りたいと思います。

今年の干支「甲辰（きのえたつ）」は、陰陽五行思想では、春の日差しが平等に降り注ぎ、大きな成長を促す年になると読み解いています。自分の足元をしっかり見つめ直し、踏み締めることで開花するようです。保護者の皆様やお子様の将来の大望を叶えるための準備が整い、足元にさす一筋の光明が未来へと続くことを祈っております。

今年も教職員一同、子ども達の輝く未来のために、家庭や地域社会と手を携え、幼児教育や子育て支援に取り組んでまいりたいと思います。お子様お一人お一人にたっぷりと愛情を注ぎ、心も体もたくましく育つよう寄り添い、支えてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年度の最終学期である３学期は、慣れ親しんだクラスの中で、自己の力を伸び伸びと発揮するとともに、友達と協同して生活することを楽しむ時期です。子ども達の言葉やしぐさ、表情などをしっかりと見取り、認め、更なる自信や心の成長につなげていきましょう。また、進学・進級に向けて、期待が大きく膨らむ大切な時期です。お家でも安心感や自尊心を高めていけるように、親子の時間を大切にしてください。

また、大規模改修でご不便やご心配をおかけしています。冬休み中に廊下や階段の補修及び塗装が進み、２月末の完了を目指しているところです。もうしばらくご迷惑をおかけしますが、ご了承ください。

今年も園運営にご理解、ご協力いただきますよう、どうぞよろしくお願い申しあげます。

お正月遊びや冬の遊びを楽しもう

○かるたやこまなどのお正月遊びを通して文字や数量に興味をもち、日常生活に取り入れて遊びましょう。
○冬の自然現象に興味や関心をもち、北風の冷たさや吐く息の白さに気付いたり、池や水たまりに張った氷・雪・霜などを見付けたりして遊びましょう。

〔１月の生活習慣〕
○寒さに負けず、戸外で元気に遊びましょう。
○ポケットに手を入れないようにしましょう。
☆うがいは、まず口の中でのブクブクうがい、のどのガラガラうがいをするのが有効です。お家に帰ったら、必ずしましょう。
※自転車の乗り方が上手になって、こまをはずして乗る子もいることでしょう。乗り方や約束などをお子さんと十分話し合い、気を付けて乗りましょう。

お話で遊ぼう

１学期から毎日、様々な絵本に出会ってきました。子ども達はお話が大好きです。静かな冬に暖かい部屋で読んでもらうお話は、子ども達の心を動かし、お話の世界へと誘っていきます。お話の世界に想像力を膨らませ、ごっこ遊びを楽しみ、そして創作的活動である劇づくりを楽しみます。２月の発表会では、それぞれがクラスの友達と一緒に頑張っているところをご覧いただいて、お子様の成長を実感し合い、喜び合いたいと思います。お家でもお話を読んでいただいたり、健康管理していただいたりするなど、子ども達を支えていただきますようお願いいたします。

〇クラスの友達と共通の目的をもち、考えを出し合いながら、ごっこ遊びや劇づくりを楽しみましょう。
・お話の面白さを感じ、登場物になって、言葉や体で表現することを楽しむ。
・遊びに必要な道具を作ったり、思いを伝え合ったりして友達と分かり合って遊ぶ。

＜家庭連絡＞

☆寒さが厳しくなりますが、**徒歩通園**の方は８時 45 分から９時までの間に登園し、**バス**の方は必ず発車時刻までにバス停でお待ちください。天候により、バス道路が凍結・渋滞する場合があります。その日の状況によって休園したりバスが遅れたりする場合には、連絡アプリでお知らせします。
〇住所やお仕事先等に変更がある場合は、速やかに担任にお知らせください。
〇風邪やインフルエンザが流行する時期です。発熱や嘔吐、風邪症状のある場合は、無理をせず、ご家庭で休養してください。

〇施設関係者評価会(12 月 19 日)ご報告（抜粋）
　日頃より実習を通して本園の教育・保育を参観してくださっている神戸女子大学の幼児教育コースの先生に本園の取組を評価していただきました。
１．保育参観から
・子どもを大切にするとともに内容もよく工夫して保育している。
・季節に合った環境を考え、準備している。製作材料は子どもが使いたいときに、自分でどれがいいか考えながら手にとれる場所にあるのが望ましい。
・一日のスケジュールが少々タイトな印象を受けた。いろいろな体験・経験を子ども達にという先生方の思いはよく分かるのですが、じっくりと物事に取り組んだり、遊び込んだりできる時間（実習生がいる時は難しいかもしれませんが…）がもう少しあると発達臨床に携わるものとしては嬉しく思う。

２．本園の教育・保育目標及び努力目標
・努力目標「気持ちを込めてありがとう」は言葉だけではなく、保護者や祖父母、地域の方々との交流を通して、気持ちを込めて言葉で表現できるようになってきている。ひとつひとつの言葉を保育者も大切にしながら保育していくことが継続できるようにする。
・幼児期に「傾聴する」態度を身に付けることは大切である。

３．保護者アンケート及び自己評価
・保護者アンケートは、子どもの姿を思い返すとともに保護者自身の振り返りになる。
・自己評価の「組織運営」では、リーダー等を位置付けたことで形ができ、組織として変わってきた。今後も新任の相談にのるフレンドシップパートナーをつくるなどして高め合う組織づくりに努めていく。また、同じ学年で保育記録を回覧し、保育の質向上に繋げていくのもよいのではないか。
・保育者一人一人が自己評価することで園の運営や自分の保育を振り返ることができる。具体的に改善策を考えて、次年度に生かしていくことが大切である。
・保護者に送るアプリの内容や時期を学年で計画を立てて送信できるとよい。普段の生活や遊びの様子の写真も送り、保護者に子ども達の育ちを伝えていけるようにしていく。

４．施設及び保育環境
・とても充実していると感じる。好きな遊びのときの保育室の充実を工夫していくといいと思う。
・材料置き場の整理、効果的・機能的な収納方法を考える。